

# しずくいし 議会だより

No.  
**100**  
2017. 1  
編集 議会広報編集特別委員会  
発行 岩手県栗石町議会

●今号の主な内容

**発刊 100 号特集**…2

12 月定例会のあらまし…5

町政を問う

**一般質問** 12 議員が質問…8

常任委員会報告 …21

ふるさとへの便り (66) …23



## 新年の ごあいさつ

雫石町議会議長  
前田 隆雄

新年あけましておめでとうございます。  
町民の皆様方には、平成 29 年の新春を、お健やかに迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。

本年は、将来にわたって活力ある地域社会を維持し、人口減少への歯止めをかけるため、町が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を本格的に具現化する年になります。

また、議会だより本号は、発刊第 100 号の節目を迎え、町議会といたしまして、町民の付託に応えるため、二元代表制としての議会の役割を自覚し、議員一丸となって雫石町のさらなる発展と町民の皆様が安心して健やかに暮らせるまちづくりに向け、全力を挙げて取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、実り多き一年となりますことを心から祈念申し上げます。

# 発刊から 100 号 「しずくいし議会だより」

「しずくいし議会だより」（議会広報紙）は、今回号で発刊から第 100 号を迎えました。

当初、議会広報編集委員会を立ち上げ、手探りでスタートした広報紙づくりは、多くの諸先輩編集委員のご尽力と読者皆様の声に支えられ、進化を続けてまいりました。

まだまだ進化途上ではありますが、現編集委員一丸となって、町民の皆様「手に取って読んでもらえる広報紙」にするよう日々努力しております。

そこで、今回「第 100 号記念企画」として、広報発刊後に議長になられ退任された歴代議長の方々に、当時のご苦労話、思い出等を執筆いただきました。また、より良い広報紙づくりのために、町民の皆様方にアンケートの協力をいただきましたので、その集計結果をお知らせいたします。



## 議会広報の 更なるご発展を

第 17 代・18 代議長  
大宮 惇幸さん

創刊第 1 号の発刊当時、編集委員の一人として議会だよりづくりに携わりました。県内の他町村議会が議会広報紙を発刊するなか、雫石町議会は発刊に至っていませんでした。雫石町も議会だよりを発行したらという声が多く寄せられ、すでに発行している町村議会からの情報、ご指導をいただきながら手探りのスタートを切りました。

議会広報編集委員会を立ち上げるまでは良かったのですが、委員の中に編集経験者はおらず、四苦八苦の連続でした。議会の活動を町民の皆様へ伝えたいとい

う思いはあるものの、紙面としてどのような形にすれば良いものかと委員全員で悩んだ事が思い出です。当時の議会事務局長、職員の方々に苦労をおかけしながら、おんぶに抱っこのような形ながらも第 1 号を発刊できたときは感無量の思いでした。

その後、多くの編集委員のご努力により、コンクールで数々の表彰を受ける広報紙にまで成長させた取り組みに尊敬の念を抱いております。

これからも創刊号にあるように、町民に親しまれ愛読される「しずくいし議会だより」でありますように願っております。





## 町の可能性を発信する 大切さ感じた

第19代・21代議長  
平子 忠雄さん

議員になった当時は町村合併して32年経過していましたが、地域を思う気持ちが強く特に求められたのは、道路整備のような目に見えるような事ばかりで、町全体予算など考えないで、陳情書を持って関係する部署をお願いして回りました。

年月が過ぎるにつれ、限られた予算でもあり、町全体の事を考えなければならぬようになり、雫石町が持つ資源の可能性を町外に発信することの大切さを、

感じるようになって来ました。

新しい計画や事業が示されますと、課題や問題が起こることが常でした。解決には時間をかけた議論と、時には妥協が双方に必要と思ったことも何度かあり、自然体の話し合いの大切さを痛感しました。このような複雑な思いを抱きながら、発行責任者としての任を果たしましたが、伝えることの難しさを感じることはわかりでした。

今後も町民のため、より良い議会広報紙づくりに尽力されまことを祈念しております。



## 町民の満足に近づける 議会だよりを願う

第20代議長  
杉田 和正さん

第100号を迎える議会広報おめでとうございます。町民に議会そして議員の活動を知っていただくため、たくさんの使命の一つとして発行している雫石町議会広報は、表彰歴も多くあり、広く認められていると思います。いま町民の一人として、毎回楽しみに読んでいます。

平成15年5月から19年5月まで4年間議員各位のご協力のもとで、議長を務めさせていただきました。就任の年、冷害対策特別委員会、任期中は総合交通対策特別委員会（現在の「あねっこバス」）、議会改革特

別委員会、この3つの特別委員会を設置し、議会活動をいたしました。

町村合併の議論もありました。町としても決断しなければならない時でもあり、町民の意向をもとに、当町は自主・自立の道を選びました。西根町、松尾村などの閉庁式に出席しましたが、町旗、村旗の収納の場面を目の当たりにし、複雑な思いが今でも蘇ります。

今後、雫石カラーを確立し、少しでも町民に満足してもらえるよう、議会運営とそれを伝える「議会だより」のなお一層の奮闘を願っております。



## 読んでもらえる 広報紙づくりに取り組んだ

第22代議長  
猿子 恵久さん

平成15年に議会にお世話になると同時に広報編集委員を仰せつかり、副委員長という大役を任せられ、緊張の中で、委員の皆さんと議論を重ね広報づくりをしたことが昨日のように思い起こされます。

紙面が大きく変わったのは、50号の平成16年7月発刊から、委員会の総意で、縦書きを横書きに変えて、より見やすくなったと評価されました。全国の広報でもほとんどなかった横書きを取り入れて、全国の賞に「雫石町議会広報」の名を馳せたのに感激したことを思い出します。

その後、平成17年に広報編集委員長を仰せつかり、また緊張と責任の重圧の中での広報づくりに夢中になりました。在京町友会で関東近郊で活躍している町内出身者の方々の紹介、一般質問者の顔写真や、議長の交際費の掲載などいろいろな議員の意見を取り入れました。より多くの町民の皆様読んでもらえる広報編集に取り組んだことを思い浮かべています。

雫石町議会の広報は、岩手県はもとより、全国的にも、上位に位置する議会広報になりましたことに、改めて議員各位に敬意を申し上げます。



# 100号特集アンケート結果

## しずくいし議会だよりに関するアンケート結果

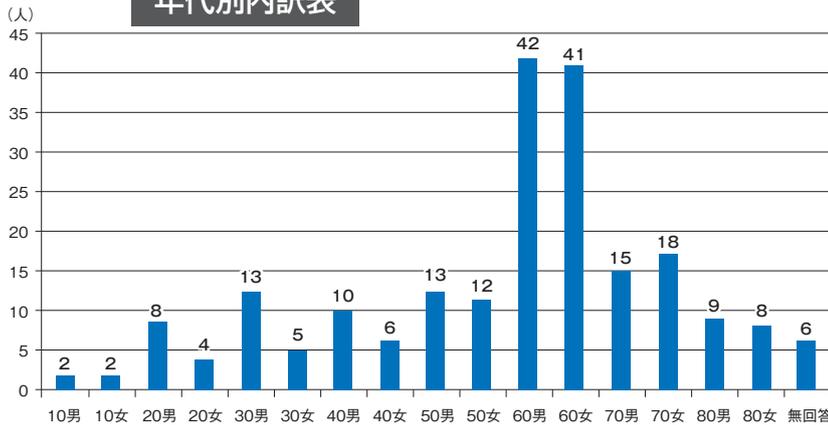
今回の議会広報100号の発行に合わせて行いました。「しずくいし議会だより」に関するアンケートについて、多数のご回答をいただき誠に有難うございました。

皆様からお寄せいただいたご意見、ご要望は今後の広報紙作りの参考とさせていただきます。これからも、皆様に見やすく、わかりやすい広報となるよう努力してまいりますので、ご指導くださいますようお願い申し上げます。

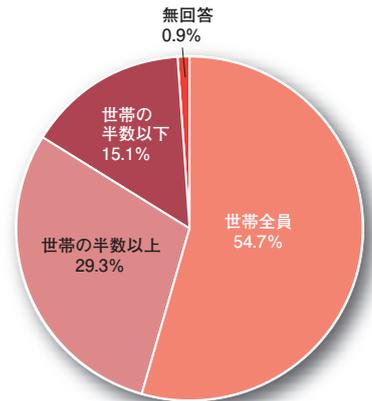
**Q. 世帯数の人数と、その中で「議会だより」を読んでいる方は何人で、その方は何歳ですか。**

1人世帯	2人世帯	3人世帯	4人世帯	5人世帯	6人世帯	7人世帯
11	43	16	17	9	6	4

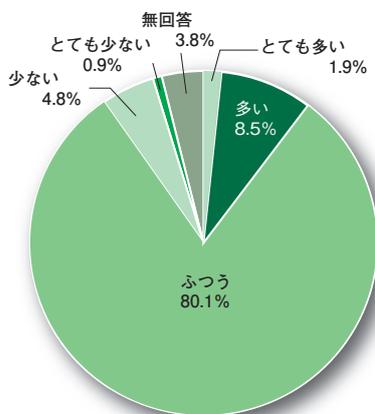
年代別内訳表



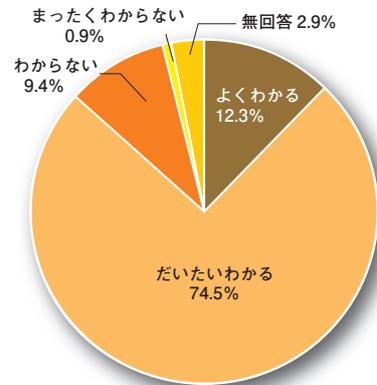
世帯で読まれている割合



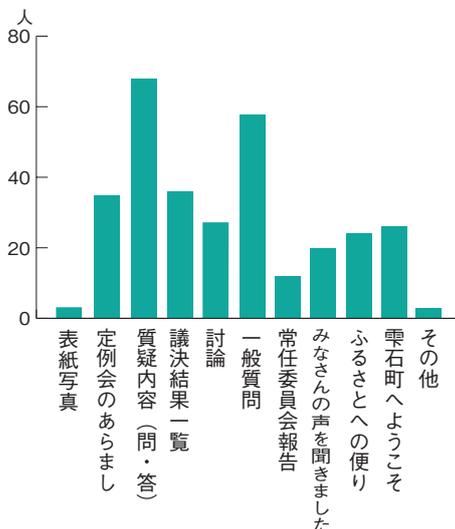
**Q. 現在のページ数は、適当ですか。**



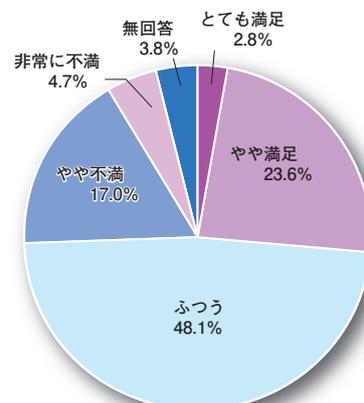
**Q. 「議会だより」を讀んで、審議の内容がわかりますか。**



**Q. 「議会だより」の中で興味をもっている記事は何ですか。(複数回答可)**



**Q. 「議会だより」を讀んで、どの程度満足していますか。**



## こばり 栗石中校舎小梁に亀裂、 スーパーエコスクール工事8カ月延長

### 対策費約3,620万円を含む約4,120万円増の 総額 I 期工事費約5億7,580万円の契約変更を可決

「今回の I 期工事管理棟で発見された亀裂は、小梁の太さ等詳細調査の結果、構造に問題はなかった。しかし、屋上コンクリートの厚さが、当初設計の 120 ミリメートルに対し、現状は 180 ミリメートルの箇所があり、約 105 トンの想定外の荷重と太陽光発電用架台等の設置荷重が相まって、亀裂が発生したと想定される。

II 期工事普通教室棟の屋上も同様に、約 96 トンの荷重がかかっていると予想される。今後、屋上の荷重低減のためモルタル撤去、小梁補強工事を行うため、今までの遅れと合わせ約 8 カ月の工事延長となる。」との報告を受けました。

文部科学省のスーパーエコスクール実証事業

費を活用して進められている、太陽光発電等を設備するこれらの工事は、当初から築 40 年の校舎（標準寿命 60 年）であることと、今後学校統廃合が予定されている時期に履行することへの疑問が、多く出された事業です。そのため、27 年 3 月定例会で予算執行の条件として「費用対効果を検討し必要最小限の工事にするこ、図書室の整備は既存校舎のスペースを有効活用し費用の圧縮に努めること。」などの付帯条件を付けて、当初予算が可決されたものです。

しかし現在、武道場新築と合わせ当初計画約 7 億円だったものが、総額約 10 億円近くに膨張しつつあります。

### 責任の所在等を明確にせよ

**問** 【川口議員】 105 トンものコンクリート施工した理由、その時の設計・施工・監理業者の対応を調べたのか。

**答** 【地域整備課長】 現在検証中で詳細なデータが届き次第調査をしていく。屋上が厚くなった原因は、雨水の勾配をとるためと判断している。



想定外に厚くなっていた屋上

**問** 【西田議員】 責任の所在を明確にしてもらいたい。施工業者はもちろんだが、それを見破れずに 105 トンもの負荷をかけたまま、屋上に太陽光パネル等を計画した早稲田大学の責任は大きいのでは。

**答** 【学校教育課長】 建物は 41 年経過しており、25 年の耐震工事の際も構造設計している。今回、想定外のこと、早稲田大学の基本設計は、その構造設計をもとにつくられているので、早稲田大学の責任ではないと思う。そのような経過の中で行政は継続しているので、責任は町にあると思う。

### 今後 20 年間 校舎寿命まで安心できるか

**問** 【加藤議員】 築 41 年の校舎、想定外がまだまだ出てくるのでは。建物寿命まで 20 年間も不安を持ちながら子どもたちが学ぶより、雨漏り補修だけでやめては。

**答** 【学校教育課長】 3 月までの間、今回変更契約に上がった中身もさらに精査していく。確実に生徒の安全確保を一番に、最後まできちっと事業を進める。

28年12月定例会は、12月2日から12日まで開会されました。今回は、「しずくいし議会だより」が発刊100号を迎える記念号となるため、全員での一般質問を目指し、議長を除く15人中12人が登壇しました。

7ページの議案は全て可決されました。

# 御所小学校誕生 29年4月1日

## 安庭、南畑、大村小学校の統合を可決

安庭小学校、南畑小学校及び大村小学校を統合し、御所小学校を設置するための「栗石町立学校設置条例の一部改正について」を可決しました。29年4月1日から施行されます。



安庭小学校の校舎を御所小学校に

### こうなりました 請願・陳情 皆さんからの

<b>【件名】</b> 鶯宿第9地割田子ノ木地内、公衆道路の町道認定及び舗装工事の早期施工願い
<b>【提出者の住所および氏名】</b> 鶯宿第9地割68番地10 鶯宿行政区 煙山庄三郎 ほか16名
<b>【審査結果】</b> 道路拡幅工事等の課題はあるが、生活道路として整備の必要があると認められるため「採択」



産業建設常任委員会による現地調査

平成28年第7回雫石町議会 12月定例会 議決結果等一覧 会期:12月2日(金)~12月12日(月)

議案番号	議案内容	議員名													採決結果			
		堂前義信	横手寿明	山崎芳邦	岩持清美	山崎留美子	杉澤敏明	川口一男	西田征洋	谷地善和	村田厚生	石亀 貢	大村昭東	上野三四二		坂下栄一	加藤眞純	
議案第1号	雫石町税条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第2号	雫石町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第3号	雫石町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第4号	雫石町立学校設置条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	●	○	○	○	○	○	可決
議案第5号	雫石町水道事業、公共下水道事業及び農業集落排水事業の設置等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第6号	平成28年度雫石町一般会計補正予算(第6号)	○	○	○	○	●	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第7号	平成28年度雫石町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第8号	平成28年度雫石町簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第9号	平成28年度雫石町介護保険介護サービス事業勘定特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第10号	平成28年度雫石町立雫石診療所特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第11号	平成28年度雫石町水道事業会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第12号	平成28年度雫石町下水道事業会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第13号	災害弔慰金等支給審査会の委員の任命及び平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波に係る災害弔慰金等支給審査会の運営に関する事務の委託を廃止する協議に関し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第14号	滝沢・雫石介護認定審査会共同設置規約の一部変更の協議に関し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第15号	雫石町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例及び職員の育児休業等に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	可決
議案第16号	町立雫石中学校スーパーエコスクール改修等工事(第1期)の請負契約の変更に關し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
発議第1号	地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書の提出について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

○…賛成、●…反対 ※前田議長は採決には加わりません。

平成28年第6回雫石町議会臨時会 議決結果等一覧 会期:11月30日(水)

議案番号	議案内容	議員名													採決結果			
		堂前義信	横手寿明	山崎芳邦	岩持清美	山崎留美子	杉澤敏明	川口一男	西田征洋	谷地善和	村田厚生	石亀 貢	大村昭東	上野三四二		坂下栄一	加藤眞純	
議案第1号	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第2号	平成28年度雫石町一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	可決
議案第3号	平成28年度雫石町簡易水道事業特別会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第4号	平成28年度雫石町介護保険事業勘定特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第5号	平成28年度雫石町立雫石診療所特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第6号	平成28年度雫石町水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第7号	平成28年度雫石町下水道事業会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
議案第8号	財産の取得に関し議決を求めることについて	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

○…賛成、●…反対 ※前田議長は採決には加わりません。

一般質問  
町政を問う  
12議員が質問

一般質問は、議員が広く町政に関し報告や説明を求めたり、疑問をただしたりするものです。定例会ごとに実施されており、質問順は抽選で決定しています。

質問者	質問内容	掲載頁
 やまぎきよしくに <b>山崎芳邦議員</b>	大松倉地域の 地熱開発の進ちよくは	9
 うわのみよじ <b>上野三四二議員</b>	南畑小廃校跡地、 校舎利用は	10
 よこてとしあき <b>横手寿明議員</b>	希望郷いわて国体の成果は	11
 かわぐちかずお <b>川口一男議員</b>	29年度予算の目玉は	12
 やまぎきるみこ <b>山崎留美子議員</b>	徹底した情報公開と 透明性を	13
 おおむらしょうとう <b>大村昭東議員</b>	公金使途に疑問、 監査機関立ち上げては	14
 かとうますみ <b>加藤真純議員</b>	指定管理料の 不適切流用の対策は	15
 やちよしかず <b>谷地善和議員</b>	高校生まで医療費無償化は 現物給付で	16
 にしだまさひろ <b>西田征洋議員</b>	医療費無償化を 高校生までとする時期は	17
 どうぜんよしのお <b>堂前義信議員</b>	森林保全整備の取り組みは	18
 すぎさわとしあき <b>杉澤敏明議員</b>	御所診療所の閉所後は	19
 いわもちきよみ <b>岩持清美議員</b>	日赤鶯鳴荘移転地の 貸し条件は	20

町長／29年2月に次年度の調査を計画

大松倉地域の地熱開発の進ちよくは

**問** 大松倉地域の地熱開発の進ちよくは。

**町長** 28年8月環境省と調整し、許可を受け9月地表調査した。29年2月協議会を開催し、調査結果の報告と次年度の調査計画を決める。

電磁波の影響は

**問** 沼返地区の太陽光発電事業による低周波、電磁波の影響は。

**町長** 太陽光発電設備の架台基礎部分にコンクリートを使わず、パネルについては光の反射を抑え、まぶしさを防ぐ対策が講じられている。その上で人体の影響は、国際非電離放射線防護委員会のガイドラインにより、非常に小さな値であり問題ない。

若者や女性による活性化は

**問** ふるさと雫石の再生について、若者や女性による町の活性化は。

**町長** 29年3月第1次雫石町男女共同参画プラン、27年3月から31年度第2次男女共同参画プランに基づき、男性も女性も大人も子どももお年寄りも、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会を目指している。

スキー客の誘客は

**問** 1993年世界アルペンスキー大会時には、県内スキー場の来客数はおよそ300万人来場があった。昨シーズンは、県全体で80万人弱の入込みで、少子高齢化、趣味嗜好も多種多様な時代に、何かしら町内三大スキー場への誘客の取り組みが考えられないか。

**町長** 21年度に町内の3スキー場により設立された「雫石スキーリゾートエリア連絡協議会」に補助金を交付して、冬季観光振興事業を支援している。また、それぞれの特徴をもつ3つのスキー場と、岩手を代表する冬季イベントである「いわて雪まつり」との連携により、町内周遊を促進する取り組みを進めている。

他にこんな質問もしました

- ・情報発信、人材育成、財政的支援について
- ・中山間地域の支援、多面的機能支払い制度対策について



気持ちと行動を  
一つにして  
がんばろう！



新たな開発が期待される大松倉

# 南畑小廃校跡地、校舎利用は

## 町長／老人憩いの家鶯宿荘の移転等さまざま検討



統合と  
廃校舎利用を  
一緒に進めないと、  
後回しでは  
物置になって  
しまう。  
そんな例は  
多くある。

**問** 小学校の統合は廃校の学区地域にとっては苦渋の決断である。地域の中核であった学校が無くなることで過疎化や人口減少による地域力を減退させないため、新たな振興策が必要である。南畑小の場合はケッパレランド、鶯宿グラウンド等を含むスポーツエリアの拠点とすることや、老朽化している老人憩いの家鶯宿荘（共同浴場）を校舎一部を活用移転して交流センターとか、鶯宿温泉の観光と連携した町歴史博物館など利活用はどうか。

**町長** 現段階では旧校舎の地域の拠点としての役割を持たせ、地域の特色や町全体としての位置づけを考慮しながら、旧学区の住民を中心に検討していきたい。南畑小廃校舎の一部は、議員提案の老人憩いの家鶯宿荘を移転しスポーツエリア拠点とし、子どもから高齢者までの交流センター機能を更に鶯宿温泉の観光と連携した町博物館など、さまざまな活用について検討

したい。学校は地域の財産であり、地域の意見を第一に行政活用部分を調整し、民間事業者の利活用など総合的に検討していきたい。

### 学校統合と廃校跡地利用は並行協議を

**問** 町総合教育会議において学校統合と廃校跡地利用を並行して進めるとしていたが、御所地区統合だけが進み御明神、西山地区は一年遅れ、更に跡地利用はこれから懇談会やアンケートを取ると言うが、統合は単なる数合わせではないはず、統合による教育レベルの目標をどこに置く考えか。

**教育委員長** 統合準備と並行して進める予定であったが、地域の拠点施設であることや学校跡地や校舎の利活用は、町長部局の企画財政課や関係課協議や地域住民の意見調査が必要であった。統合は、複式学級の解消が主な目的であるが、大村小の山祇神楽、南畑小の堰賛太鼓など児童が伝承芸能と取り組めることで地域との絆が深まることを期待している。

**教育長** 統合したときに、前の学校の先生が全くいない子どもたちは不安になる事から、県教委が決めることだが、教員も人数割り配置を考えたい。跡地利用は、検討が遅れたが来年度中には意見をまとめ、地域の活性化に結びつけるようにしていきたい。



閉校後の活用が期待される南畑小

# 希望郷いわて国体の成果は 町長／町内施設に延べ約7,000人の宿泊

**問** 今後、今回の国体開催の経験をどのような形で生かしていく考えか。

**町長** 盛岡広域8市町の中にあっても宿泊の受皿として雫石町が果たす役割の大きさが実証された。今後は、相互に連携、協調してスポーツツーリズム推進計画を策定し、スポーツによる交流人口の拡大、地域スポーツの推進、メガスポーツイベントへの取り組みといった基本的施策に基づき事業を展開する。

**問** 新たなスポーツイベントの企画、開催は考えているのか。

**町長** 29年3月に「2017 JOC ジュニアオリンピックカップ全国ジュニアスキー競技会アルペン競技」が開催される。その開催成功に向け鋭意準備を進めている。

**問** オリンピック、ワールドカップなどの代表クラスの合宿を誘致する考えはないか。

**町長** 「2019 ラグビーワールドカップ」の競技会場のひとつに釜石市が選ばれたので、雫石町ではその公認チームキャンプ候補地として組織委員会に申請する準備を進めている。

## 統合後の小学校施設の活用は

**問** 町ではスポーツ少年団の活動にどのような支援を考えているか。

**町長** 本町では各種目とも活動が非常に活発である。活動拠点となる学校体育施設の開放や、社会体育施設の適正な維持管理、大会運営あるいは全国大会出場選手派遣に係る補助など、子どもたちが楽しく夢を持って活動できるよう支援していきたい。

**問** 屋外スポーツ競技の雨天時、冬季の練習場所として統合後の小学校施設を活用できないか。

**町長** スポーツ合宿の誘致の観点からも、雨天時の練習場所は必要になってくると思う。各競技によって何が必要なかと合わせ、統合後の施設を活用できるかについて、至急に協議、検討していく。



大会誘致、合宿誘致に  
大切なのは  
「おもてなし」  
のこころ



国体選手団に好評だった町内小中学校の応援

# 29 年度予算の目玉は

## 町長／執行方法・体制の見直しと創意工夫



(町民)  
俺らには  
説明ないが…。  
(議員) 説明して  
くださいよ。  
なに隠してる…。

**問** 29 年度予算策定の方針について、来年度予算要求も各課で集計段階に入っていると思われるが、深谷町政7年目に入っている。来年度目玉となる政策を伺いたい。

**町長** 29 年度予算策定の方針について、11 月初めに予算編成方針を作成し、「こどもを生き育てたいと思える環境づくり」「いつまでも安心して暮らすことができる地域づくり」「金銭やエネルギーが地域内で循環する仕組みづくり」の3つの視点を持ち、前例を踏襲することなく、執行方法や執行体制も含めた事業の「仕組み」の徹底した見直しと創意工夫による予算編成に取り組むよう各課に通知した。

**問** 方針、長期計画はたくさんあると思うが、町民の声は、非常に現町民への施策は薄いのではないかという声が多くある。私は議員という立場は町民に対しては行政と住民とのパイプ役でもありと考えている。議員に対して、いろいろ説明不足と思うが、伺う。

**町長** 人口減少の中で、2040 年に雫石町の人口は約1万1,000 人になっていくという現実を見た場合に、国とあわせて総合戦略まち・ひと・しごとの5 年計画を固めて、その計画に雫石町にふさわしい事業を盛り込んでいこうという事で進んでいる。確かに説明が足りないという事はある。今後説明をしていく。

**問** 小学校が統合することは大変なことであるが、今後の有り方として、統合すべきであると思う一人である。各地区の委員各位、当局、町長、教育委員会に感謝するが、統合による町負担経費は。

**教育委員長** 御所小学校が開校になれば29 年度約1,510 万円の軽減であるがスクールバス1 台等の増になる部分もある。また、体育館の新築等もあり明確な数値はでき次第報告する。

**意見** 大村小学校、南畑小学校の跡地利用等は、地域の皆さんとじっくり相談したり、有知識の方と話し合い、意見を収集するべき。



春からは御所小学校

# 徹底した情報公開と透明性を 町長／丁寧<sup>に</sup>説明し事業を行っていく

**問** 大幅に遅れている14ヘクタールに係る事業計画だが、町民への説明会は最短でも4月以降になるかもしれないと聞いた。住民が知る機会をさらに先延ばししており、情報公開の観点から考えると順序が逆ではないか。

**企画財政課長** 生涯活躍のまち基本計画の中で、CCRC導入の経済効果と町の財政分析を行いたいと考えていたが、内閣府から助言をいただいた中で、市町村をモデルに財政分析を行いたいという話があり野村総合研究所へ委託した。住民へどのように説明していくかは4月以降になるかと考えている。

## 裁判になった本質的な原因は

**問** 網張源泉に係る裁判は係争中という一言で、町の考えを議会や町民に伝えていないが、この件に付随する開示請求件数は、3年間で延べ33件もあった。裁判になった本質的な原因は。

**町長** 盛岡地裁で一部敗訴になったことを含め工事に係る補助金交付目的や経緯について説明が不足した部分があったと考えている。

## 歴史的文化財をまちづくりに

**問** 文化庁は、芸術や町並みなどを地域の資源として戦略的に活用し地方創生の力とすることで東北の支援を重点化している。歴史民俗資料館の存在も含め、文化芸術のまちづくりに活かしていく考えはないか。

**教育委員長** 文化財資源を正確に把握、調査し、町外からも広く情報を得て比較検討や位置づけを行っていくことも必要だ。東北には、歴史文化について調査研究を行っている大学が複数あるので、資料館の存在もアピールし、研究機関と情報交換しながら総合連携にまずは努めていきたい。

**問** 曲り家の民具等についてはデータベース化しているとのことだが、説明板などをつけて整理する必要があるのでは。

**生涯学習課長** さまざまな事業を実施しているので手が回らないという実情もあるように思われる。少しずつ改善していきたい。



ちよつと待て。  
そのまま進めていいの  
この事業…  
立ち止まって検証。  
これ大事。



評価が高い曲り家の更なる活用を

# 公金使途に疑問、監査機関立ち上げては

副町長／今の体制で足りる



クロスカントリー  
スキー場の人件費、  
使途が不可解だ。  
私も町民も、怒り心頭？  
当局は善処しないのか。  
あきれた能天気。

**問** 町有地 14 ヘクタール活用プロジェクト、多面的機能支払交付金事業、耕作放棄地復旧補助金事業、網張温泉源泉整備事業等に不可解な部分が多すぎる。誰が執行確認しているか。

**町長** それぞれ所属長が確認している。

**問** 11月22日仙台高裁の判決に、事業に関連した稼働が認められず、「公的資金の私的流用は許されない」とある。所感を伺う。

**総務課長** 調査が必要な時は現場で調べている。

**問** クロスカントリースキー場の人件費約260万円が、26、27年度、給料を支払う職員の稼働がないのに、なぜ予算計上したか。しかも28年度も予算計上した理由は何か。

**企画財政課長** 担当者、課長が確認執行している。

**生涯学習課長** 双方で協議が固まらないまま計画を立てたと聞いている。

**問** 納税者が汗水流して手にした金の税金を、このような使い方でいいのか。

**町長** 何ら不明不正みたいなことではなく、少し軽率な運用であった。

**問** 25年度までと同じやり方であるから、給料も残業手当も支出する根拠はない。私の調査では別な名目で支出している。会計管理者はどう確認したのか。

**会計管理者** 当課の把握には困難がある。

**問** 28年度も予算計上しているが、根拠のない支出に会計管理者は執行停止しなかったのか。

**会計管理者** 関係書類が適正であれば、その部署が検査しているので、指摘する立場にない。

**問** 公金取扱いの不適切が重なっている。会計管理者の附属機関として、県立大学を加え、財務省の46監査のような常設機関を立ち上げては。

**副町長** 今の体制で足りる。

**問** 野村総合研究所に何を頼んだのか。

**企画財政課長** 財政分析と経済効果分析である。



指定管理で運営されているケップアレランド

# 町長／1名分の人件費の返納を検討 指定管理料の不適切流用の対策は

**問** 町体育協会（以下体協と略す。）は、クロスカントリースキー場で雇用予定の1名を雇用しなかった。その分を26年度は職員に賞与として分配、27年度も同様にしようとしたが不適切と言うことで、管理運営費積立預金とした。当局も体協幹部も「公金の使途」については、特に厳格であるべきだ。プロ中のプロがつかさどっているにも関わらず、公金、すなわち町民の税金という認識が薄いと言わざるを得ない。今後の対策を問う。

**町長** 体協は、両年度とも1名分の人件費を自主返納する方向で理事会に諮る。町当局は、その決定を受けてから検討する。年度会計決算処理の指導を強化し、体協と一体となってサービス向上に取り組む。

## 体育施設の指定管理を公募しては

**問** 「自分たちの食いぶちは、自分たちで稼ぐのだ。」という意気込みと行事のマナー化打破のため、職員の雇用を確保しつつ、施設管理をコンペ方式で公募しては。

**町長** 町の競技スポーツ振興や競技力の向上、健康増進に貢献することから、これまで通り指定管理者とする。

## 14ヘクタールも太陽光発電所にしては

**問** 1工区のインフラ整備、すなわち14ヘクタールのアクセス道路の新設工事は、9月に1票差で可決した。しかし、これ以上、2工区、3工区のインフラ整備に無駄に数億をかけるより、隣接する雫石太陽光発電合同会社に町有地を貸して、太陽光発電所を増設してもらうことがベストではないか。町のPRに大きく貢献するのでは。

**町長** 少子高齢化あるいは人口減少などを解決していくため、未来に向けて大きな前提があってここまで来ており、国の制度等も活用することから、あえて太陽光に切りかえることは一切考えてない。



国策に沿っていると  
いうだけで  
民意に反して  
進めるプロジェクト。  
町民への説明は  
怖いだろうな。



町有地14ヘクタールから北側を望む

### 他にこんな質問もしました

- ・移住・定住促進の取り組みは
- ・14ヘクタール利活用の進ちょく状況は

# 高校生まで医療費無償化は現物給付で

町長／**全県統一で実施が妥当**



**問** 29年4月からの高校生まで医療費無償化を機に、医療費の窓口負担の無い現物給付とする考えはないか。

**町長** 医療費助成の現物給付と償還払いが混在する中で、さらには各市町村が単独で上乘せ助成している子ども医療費は、対象年齢や条件が市町村によって異なっており、受診者の利便性や各医療機関の窓口における煩雑化等を考慮すると、対象年齢の区分により全県統一で実施することが妥当と考えている。

## 他にこんな質問もしました

- ・本町では、日本版CCRCにどんな未来を描いているか

## 指定管理者の余剰金の取り扱い

**問** 指定管理者との協定上の余剰金の取り扱いはどうなっているか。毎年の精算でなく、指定管理期間満了の際に精算するのが望ましいと考えるが。

**町長** 各施設のそれぞれの設置目的や特性を勘案しつつ、指定管理者の収支予算、決算の状況、事業実施内容の確認のほか、指定管理者へのヒアリング、毎年度の業務報告等と通じて把握した上で、指定管理者と協議し、適時に判断する必要があると考えている。

**副町長** 4年間の指定管理期間中の基本協定、年度ごとの年度協定で取り決めを行っている。町体協の場合は、差額が生じた場合でも修繕費を除いては原則的に指定管理料の精算は行わないと規定している。

**総務課長** かなりサービスが低下した場合については、当然返還も生じるので、そういった仕組みを来年度以降は協定書の中にうたうような形にしていきたい。



町長／29年4月から

医療費無償化を高校生までとする時期は

**問** 町長は子どもの医療費助成を中学校から高校まで拡大したい旨言明されたが、いつからにするつもりか。また、同時に一旦立て替え払いする償還払いではなく、お金を持って行かなくても診察してもらえる現物給付制にできないのか。

**町長** 29年4月から高校生まで対象を拡大したい。現物給付制にすれば政府からペナルティをかけられ、国から来るお金が制限され少なくなる。現物給付できるよう環境整備が必要だと思っている。

### 就学援助早めの支給ができないか

**問** 就学援助制度は義務教育無償化に向けて収入の少ない家庭へ援助するもので、大変喜ばれているものだが、この適用時期を4月入学前に前倒しできないか検討してはどうか。

**町長** 認定審査と手続きを工夫すればできるかどうか、検討する必要があると思っている。

### 網張温泉源泉控訴審の争点は

**問** 網張温泉源泉工事控訴審の争点を、議会で説明するべきでは。

**町長** 工事自体が、町の事業か休暇村岩手網張温泉の事業かというのが一番の争点と考えているが、町としては休暇村の事業と主張している。

### 選挙の巡回投票は

**問** 各種選挙の巡回投票<sup>\*</sup>はどうか。

**町長** 投票の機会の確保という点で、有効と考えており、導入は不可能ではないと思う。



4月から町では赤ちゃんから高校生まで、子ども達への医者代がタダになります。皆さん喜んでいますが、どうせなら窓口負担が無ければいいな…。



投票率向上のため、巡回投票も

<sup>\*</sup>巡回投票…選挙管理者が車で各地を巡回する、移動期日前投票のこと

# 森林保全整備の取り組みは

## 町長／町単独補助で負担軽減を図る



わが町の  
森林が荒廃せず、  
いつまでも  
豊かであって  
ほしいな。

**問** 森林の荒廃が至るところで見受けられるが、雫石町農林業基本計画では、5つの基本施策により森林の循環を促進するとある。施策の取り組み状況と民有林整備の支援策は。

**町長** 町総合計画後期基本計画の分野別計画として「植える、育てる、利用する」森林の循環を促進することとしており、民有林の整備促進の具体策として、山林所有者の負担軽減を図るため森林整備事業に係る補助に町単独かさ上げ補助を実施することとしている。

### 地域づくり計画の支援体制は

**問** 雫石町地域づくり計画による、28年度下半期の実践活動状況と今後の実施予定はどうか。また、町の支援体制はどのようになっているのか。

**町長** 各地区地域づくり会議が活動ごとに13チームを編成し、実践活動を進めている。

地域おこし協力隊員を2名委嘱し、ソーシャルネットワークサービスや広報紙による情報発信や活動支援を行っている。

地域の実践活動について金銭的な支援として、今年度地域づくり事業交付金を創設し、各地区40万円を交付して、実践活動に活用していただいている。

### どう活かす、国体の経験

**問** 国体開催に係る運営ノウハウや設備を町民の健康増進やスポーツ振興、観光等に利用していく考えはないのか。

**町長** アーチェリーは、大会の設備を活用し、記念大会等の開催を検討している。

3B体操は、3B体操協会が町民への普及と健康増進推進のため、講座や大会の開催等検討している。

さらに、2019ラグビーワールドカップ公認チームキャンプ候補地として申請することとしており、スポーツ合宿地としての誘致を期待し、宿泊等による地域経済の活性化、町内スポーツチームの資質向上、町民の健康増進が図られると考えている。



手入れが待たれる山林

町長／有効な施設活用を検討する  
御所診療所の閉所後は

**問** 御所診療所は28年11月10日をもって閉所となったが、町は今後どのように考えているのか。

**町長** 直ちに御所出張診療所を開設することは医師確保の観点から大変困難なものと考えている。現在、庁内で協議中であるが、健康教室の開催や放課後児童クラブなどによる高齢者とのふれあいの場としての活用など意見が出されている。地域住民の有益な施設となるよう検討する。

環境対策の実施状況は

**問** 近年におけるごみ減量化と資源化の動向はどうなっているか。

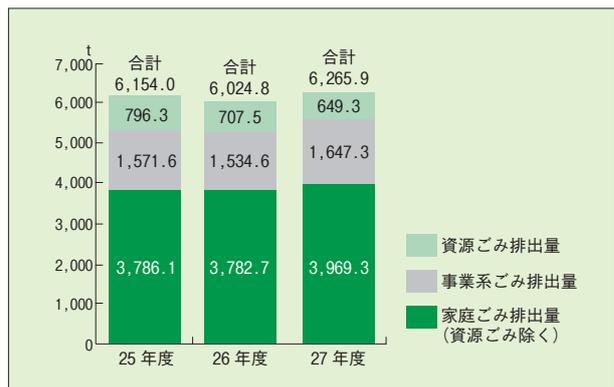
**町長** 当町の1人1日当たりのごみ排出量は、25年度が1,002グラム、26年度が992グラムと減少傾向であったが、27年度は1,035グラムと再び増加となっている。資源化率は、25.9%、25.5%、27.4%と高くなってきている。町としては、ごみを減らす、再利用する、リサイクルする3Rへの取り組みを基本に、ごみの分別や適正処理、地域における集団資源回収への支援や古着の拠点回収などにより、環境に優しい循環型社会の構築に向け、ごみの減量化と資源化の促進に取り組んでいく。

**問** 地球温暖化を防止し、持続可能な社会を構築するため、化石燃料に代わるクリーンエネルギーの導入状況は、どうなっているか。

**町長** 25年度からの3年間には、役場庁舎や町営体育館等に太陽光発電設備を導入した。26年度には電気自動車用の急速充電装置を道の駅雫石あねっこに設置した。一般家庭向けとしては、雫石町クリーンエネルギー導入事業により、24年度から27年度までに太陽光発電設備86件、木質燃料燃焼機器設備74件に補助をしている。事業者によるクリーンエネルギーの導入も行われており、葛根田地熱発電所および水力発電所や太陽光発電4件、バイオマス発電が導入されている。当町は、再生エネルギー自給率が154.5%であり、岩手県では1位、全国では31位となっている。



1人1日当たりのごみ排出量は、全国平均、県平均より多い。さらなる減量化が必要だ。



ごみ排出量の推移

# 日赤鷺鳴荘移転地の貸し条件は

## 町長／南畑町有地 30 年間無償で



次から次と  
問題が湧いて来る。  
なんかも、  
栗石町政。

**問** 25年4月5日、議員全員協議会で日赤鷺鳴荘の移転について説明があった後、今日まで何ら動きがなかったが、来年春から事業着手という声がある。本町におけるただ1つの特養であり、大変重要な施設と認識しており、一刻も早い完成を望むものだが、どのような計画か。

**町長** 「栗石町ゲートボール場」隣接地の町有地に延べ床面積約4,011平方メートル、鉄骨2階建て。1人部屋80室の特別養護老人ホーム、1人部屋10室のショートステイ、定員20名のデイサービスセンター等を備えた計画となっている。

### 他にこんな質問もしました

- ・本学校給食に問題はないか
- ・地域再生計画は認定されたか

### 町有地 14 ヘクタール、 町民への説明はいつ

**問** 約6,000万円を投じて作った計画であるのに、今だに正案が示されないまま二転三転している。変更後の計画は。

**町長** 道路整備等については、町が29年度の完成を目指し、(株)コミュニティライフしずくいしは開発許可申請と建築確認を行う。サービス付き高齢者向け住宅等は、官民連携で行う予定。

**問** 来年度予算を審議する前に開発申請したなら町民と議会に説明すべきではないか。

**町長** 1月中旬に開発申請する予定なので、申請が済んだならなるべく早く町民と議会に公表する。

**問** 町有地14ヘクタールの賃貸契約は結んだか。

**企画財政課長** (株)コミュニティライフしずくいしとは、不動産鑑定が終わったので開発が進む前に契約する。



日赤鷺鳴荘移転予定地（奥の建物は南畑小）

## 総務常任委員会

〔杉澤敏明委員長〕

### ○ふるさと納税、大幅増加

町では、平成20年6月に「ふるさと雫石応援基金」を設置し、ふるさと納税制度による寄附金の募集を開始しました。20年度から26年度までは、毎年度300万円前後の寄附金でした。

27年9月1日より全面的に内容を見直し、寄附の用途を「子ども・子育て」に関するメニューをはじめとした11のメニューに拡充し、インターネットによる寄附の受付とコンビニ納入・クレジットカード決済の導入を開始しました。また、寄附の御礼としての雫石産米や雫石牛など農畜産物や特産品等を贈呈することとし、内容の充実を図りました。

こうしたことにより、27年度のふるさと雫石応援寄附金は79,800,502円(延べ6,140件)と大幅に増加しています。28年度も11月末現在、41,813,004円(延べ3,174件)となっており、27年度を上回るペースで寄附金が寄せられています。

寄附金の多いところは、東京都656万円、大阪府488万円、神奈川県430万円、静岡県295万円、愛知県291万円の順となっています。

また、贈呈品の希望割合は、雫石産米が1,541件で48.6%、雫石牛は1,190件で37.6%、小岩井農場商品は430件で13.6%、物産品は9件で0.3%、観光関連は2件で0.1%となっています。

## 産業建設常任委員会

〔岩持清美委員長〕

### ○まちの再生をめざして

11月8日～10日まで大分県と福岡県で所管事務調査を行いました。

大分県豊後高田市のアグリチャレンジスクールは、新規就農者に2年間で経営技術を習得させる移住者用事業を実施。県外より16名の受講生を受け入れていました。また、商店街の活性化のために、空き店舗活用事業等を活用した「昭和の町」づくりを行い、年間25万人を超える観光客が訪れる事業の実施状況を調査しました。

福岡県久留米市では、久留米広域定住自立圏事業として近隣市町と連携し、「手作り体験型観光商品・まち旅博覧会」を開発。その運営と推進の状況を調査しました。他に大分県農業文化公園の農業普及事業を調査しました。



25万人が訪れる「昭和の町」

## 教育民生常任委員会

〔山崎留美子委員長〕

### ○スーパーエコスクール改修工事の設計が変更

11月25日、文科省のスーパーエコスクール実証事業として工事中の、町立雫石中学校の状況を視察し調査を行いました。

工事中の教室内天井下梁部分に亀裂が確認され、詳細な調査を行った結果、屋上のコンクリート床厚さが当初設計図面では120ミリメートルであったが、実際には180ミリメートルの厚い箇所があることが判明しました。太陽光やOMソーラーシステムの導入などで、屋上に約105トンという想定外の荷重がかかっていることが考えられ、その影響から亀裂が生じたのではないかと説明が学校教育課からありました。梁には鉄筋が入っており問題はないということですが、生徒たちの安全と学習環境の万全を期すために、屋上工事は3月中頃まで中断し、モルタルの撤去や復旧で約6ヶ月の工期が見込まれます。工事にかかる変更予定額は

さらに4,120万円の増額となりますが、委員からは、問題となった原因の調査や検証を求めることなどの意見が出されました。

新築中の武道場の工事は順調に進んでおり、ふんだんに木を使用していることから香りが漂っていました。竣工は3月7日の予定としています。



小梁の亀裂を調査



# 議会へのひとこと 皆さんの声を聞きました



ほそかわ まさみ  
細川 正巳さん  
(40歳・元御所行政区)



かみもりあいな ほなほ  
上森合 菜帆さん  
(20歳・小松行政区)



おおはし ゆうこ  
大橋 裕子さん  
(25歳・中島行政区)

## 子は宝

私は昨年度まで七ツ森小のPTA会長を務めさせていただきました。また雫石町地域づくり会議などにも参加させていただき色々な活動をしていく中で、子どもに関わることが多く、考えることも多くなりました。今の子どもたちが雫石で生まれ育ち、学校で学びそして家庭を持ち老後をどう過ごしていくのか。何人の子どもたちが雫石にずっと住み続けてくれるのか。その時にはどんな雫石町になっているのか。少子化や県外への就職などで人口が減り、来年度からは小学校も統合して減ってしまいます。どうしたら人口は増加するのか？その為には何が必要なのか。学校や子育ての環境や支援、就職環境や医療施設。(そういえば産婦人科が近くにないなあ…)考える機会が増え、難しい問題だなと改めて感じました。

『子は宝』本当にその通りだなと感じます。これからの私たちを支えてくれるであろう子どもたち。そして町の一番の財産。この子たちがずっと住みたいと思える町、沢山の子どもたちが元気に走り回っている町を想像しながら色々な活動を通して小さいながらも何かの力になればと思います。

## 雫石町に住んでもらうために

多くの若者は「一度は県外に住みたい」と思うのではないのでしょうか。私は思いました。私の友人も、自分の夢を叶えるために県外に行った人もいます。

雫石町からすれば、若者が雫石から出て行ってしまふことはつらいことですが、それは雫石や盛岡、岩手に自分の夢を叶える場所がないからだと思います。

過日の成人式で「今後、雫石町の人口が半分に減ってしまう。」と聞き、私はこれではいけないと思いました。

雫石町に住んでいた人に、雫石が嫌いだという人はいないと思います。実際、私の友人のほとんどは、雫石町が大好きです。温かい人たちがたくさんいて、空気が澄んで食べ物おいしい、温泉やスキー場があり、盛岡も近く、電車も通っていて、住むのに快適な所だと思います。就職する人、結婚する人がもう一度雫石町に戻ってきてもらうための対策を考えるべきです。

例えば、就職先を増やしたり、空き家、アパートなどの情報を提供したり、家賃を助成するなどの支援を行い、若者が戻ってきて生活しやすい環境をつくってほしいと思います。そうすれば県外に出て行った人がまた雫石町に戻ってきてくれるのではないかと、そして、雫石町がにぎやかになるのではないかとと思います。

## スポーツで多くの人が集う環境づくりを

雫石町はスポーツが盛んで、スポーツをするうえでたくさんの恵まれた環境があると思います。その環境の中で、私がやってきたスポーツがバレーボールです。小学校、中学校、高校、そして今は、母校である雫石中学校女子バレー部の指導に携わらせて頂いています。中学生時代には、中学校の敷地内にあるセミナーハウスを利用し、合宿をして、県内・外のチームの仲間と共に親睦を深めながら切磋琢磨し、思いきりバレーボールに打ち込んできました。このような活動は、今でも続いており、県内・外から、たくさんの子どもたちや指導者、父母の方々が雫石に足を運んで来ています。毎日のように練習できる場所があり、同じスポーツをする仲間と共に過ごせる施設がある地域はなかなか無いと思います。

子どもたちは、さまざまなスポーツを通してたくさんの人と出会い、たくさんを学ぶと思います。その子どもたちが思いきりスポーツに取り組み、たくさんの人と出会い、学ぶ事ができるよう、町内にあるこのような施設や環境をきちんと備え、大切に守って欲しいと思います。そして、これからもスポーツが盛んな町であり、スポーツを通してたくさんの方々に雫石町に足を運んで欲しいと考えています。

## ふるさとへの便り— 66

にいさところじ  
在京雫石町友会 会長 新里孝二さん



# 『しずくいし議会だより』100号に寄せて

『しずくいし議会だより』発刊 100 号おめでとうございます。

本『議会だより』が岩手県町村議会議長賞を多年に亘り受賞されている事、全国町村議会議長会から優良賞やフォトグランプリ賞を受賞されている事は、全国的に高い評価を得ていることと認識しています。故郷の広報紙が全国的に高いレベルで発行されていることは町友会のほこりでもあります。議会の皆様並びに事務局の方々の並々なぬ研鑽とご努力の賜物と拝察しております。

『議会だより』に「ふるさとへの便り」のコーナーを設定して頂いたのは、平成 12 年 8 月号からでした。寄稿者は、中嶋重美さん(当時の町友会会長)でした。『…夕方ともなると各家々から馬の親子連れが川辺に集まったものでした。…』と望郷の念を抱きながら地名の由来等について言及された『便り』が鮮明に脳裏に浮かんできます。以来、本欄に延べ 66 人ものが員が寄稿させて頂きました。永い期間、町友会と会員のために継続的に掲載して頂いている事に対し町友会を代表して心より感謝申し上げます。

以前、本欄に掲載させて頂いた折に『議会だより』が多くの方々に拝読されていることを痛感しました。『孝二君、読んだじゃ。元気でえな』『孝二君、今度ばくろう採りにこいじゃ』ご無沙汰気味の友から多数の声、『新里さんは山菜採り好きなんだ』『タケノコいっぱい採ってどうする?』町友会の集まりで話題になったりもしました。このように「ふるさとへの便り」は、故郷・雫石との『絆』を深化・発展させてくれています。町友会会員相互の理解を深めさせてもくれています。

ある著名人の言葉が浮かんできます。『小

さい時に見た風景は、これから生きていくための大きなエネルギーになるでしょう』この言葉は、真実だと体験的に確信しています。

帰郷した際、『寒くねえか。まずねまれ』と迎えてくれた、迎えてくれる柔らかくて温かみ溢れる雫石弁は、小さい時からの『人との触れ合い』の原風景の原点です。町友会会員の風景は、小さい時からの自然との触れ合い・地域との触れ合い・家族との触れ合い・友との触れ合い等『雫石での多様な触れ合い』から形成されています。

『ふるさとへの便り』で登場してくる風景が話題になると会員皆瞬時に話が弾みます。そして、会員一人一人が明日からのエネルギーを本欄から頂き、小さい時からの『故郷・雫石の風景』を大事にしながら生活をしています。『ふるさとへの便り』は、町民の皆さんと私たち町友会の『心の架け橋』となっております。お陰様で『絆』が広がり、深化してきました。永きに亘り本欄を掲載させて頂いている事に対して、議会の皆様、事務局の皆様に深甚なる謝意を表します。結びに、故郷・雫石町の益々の発展と町民皆様方のご健勝を祈念申し上げ『しずくいし議会だより』100 号発行のお祝いの言葉と致します。



28 年 6 月に開催された在京町友会  
(前列中央が筆者)

昭和 18 年生まれ。さいたま市在住。御明神春木場出身。埼玉県公立学校教諭歴 20 年。岩槻市教育委員会指導主事、学校教育部長、公立学校長歴任。平成 25 年 6 月から在京町友会会長就任。

# 雫石町へようこそ



## お嫁さん

## お婿さん



ご縁があり、町外から迎えられた  
「お嫁さん」



夫の英明(ひであき)さん (33歳)、  
長男の宗志(そうし)くん (9歳)、  
長女の桜音(おと)ちゃん (7歳)、  
次女の咲音(さと)ちゃん (3歳) と自宅にて

よねざわ ひろみ  
**米澤 裕美さん** (35歳 滝沢市出身)  
(旧姓: 金田一、赤滝行政区在住)

### Q- お二人の馴れ初めは？

- 共通の友人を通じて知り合いました。

### Q- 雫石町に暮らしてみて、いかがですか？

- 自然とふれあいながら遊べるイベントがあったり、公園も近くにあるので、親子で楽しんでいます。雫石町で仕事をできるようになり、地域の方の人柄が温かく助けられています。

### Q- 町に望むことは？

- 子供が3人いるので、安心して子育てができ、楽しめる町づくりをして頂ければ、とても心強いです。

## 編集デスク

「読まなければ何の意味もない無駄な仕事である。」とは、ある講師の編集委員に対するきつい一撃であります。

さて、「しずくしいし議会だより」は発刊100号となりました。議会だよりづくりは、議員のためにも町当局のためにもないことを念頭に、町民の皆様は何を知らせるべきか、どうしたら手に取って読んでもらえるかを追及して足かけ10年、他の委員と一丸となって奮闘し続けております。

例えば、先進地へ出向き研修したり、また全国町村議会広報研修会に参加したり、研さんを積みながら、各議員の賛否や発言者名の公表などさまざまな改善、工夫をしてきました。

その努力の甲斐があって、議会広報コンクールで4年連続入賞、優良賞を受賞することにも繋がりと、全国市町村から議会広報研修のために来町いただくことも多くなりました。

100号を機に委員一同、議会広報編集に携わる限り終わりのない修行であると肝に命じて、一層努力を続けてまいりますので今後ともご指導、ご協力を宜しくお願い致します。

(議会広報編集特別委員会委員長 加藤真純)

## 情報公開

### ● 議長交際費執行状況

【議長交際費内訳 (10月～12月)】

月	葬祭費	お祝い、会費
10月	0件 0円	3件 12,500円
11月	0件 0円	9件 40,500円
12月	0件 0円	4件 14,000円
小計	0件 0円	16件 67,000円

### 【議長交際費とは】

議長等が議会を代表し、外部との交渉、情報収集、町政協力者への謝意を表すために係る経費で、会費や香典などです。

※議会の動きはHPに掲載しております。

### 今月の表紙

議会広報は平成4年5月創刊から年4回発行し、25年経過しました。第50号から横書きに変更するなど、皆さんに読んでもらうための工夫をしてきました。表紙写真にも時代の流れを感じます。写真撮影、掲載記事にご協力くださいました町民の皆さん、ありがとうございました。

